

白山ふるさと文学賞

第十一回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年 作文の部 優秀賞

「人の役に立つ、科学者になりたい」

明光小学校五年 山田 正隆

ぼくは4年生の頃に、「科学者になりたい。」と思っていました。それは、ウイルスなどの感染症や、病気の研究をして人の役に立ちたいと思っていましたからです。

そこで、今回の作文を通して5年生になった今、科学者になりたいと思った理由や、どのような研究をしたいか、そのような事がどのよう
に人の役に立つかなどを丁寧に考えてみようと思いました。

ぼくは将来、感染症（新型コロナウイルスなど）の治りよう薬などを作る科学者になってみたいと思いました。その理由は3つあります。

一つ目は、「ある大学の科学者グループが新型コロナウイルスのワクチンを作った。」という事をニュースで聞いて、すごいな、カッコいいなと思ったからです。ワクチンを作るためには、長い時間と集中力がとても大事になってきます。ですが、そのかべを乗り越えてワクチンを作った事からすごいなかつこいいなと思いました。

二つ目は、もし新型コロナウイルスの治りよう薬が作られたら、たくさん
の人の命が救われるからです。新型コロナウイルスは他の感染症よりも、感染力が高い病気です。いまだ治りよう薬が開発されていません。治りよう薬が開発される事によってより多くの人々が安心して
くらせる事ができるのです。

「新型コロナウイルスの変異株がどんどんふえてきて、前まで効き目
があったワクチンでも効果がなくなってしまう。」という事を新聞で
知りました。そうになると、どんなウイルスにも勝つ、ワクチンをつくら
なければいけません。今でもたくさんの方が、新型コロナウイルスにかか
って苦しんでいると思います。最近、いところ通っている保育園がク
ラスターを起こしてしまいました。そしていところが新型コロナウイルス
に感染してしまいました。数日後、いとこの家族全員が新型コロナウイルス
にうつってしまいました。発熱やおうと、のどのいたみなどが何日も続
きとても大変だったそうです。おばあさんは、「味

がまったく分からない。」と母に相談してきました。祖母は、食べ物
などを買ってとどけていました。またたくまに家族全員がうつり、ぼ
くは、

「とてもない感染力だな。」

と思いました。科学者になり、治りよう薬の開発に成功すれば世の中
の役にも立つし自分や他の仲間たちも大きなよろこびと自信になる
と思います。

三つ目は、新型コロナウイルスのえいきようで学校で行われる予定
だった、行事が取りやめになってしまおうという事が起きたことです。
一刻も早くに新型コロナウイルスの感染のかくだいを防がないとい
えんに学校の行事がなくなってしまうとぼくは考えました。学校だ
けではありません。町の行事も取りやめになってしまおうのです。た
くさんの行事を取りもし、子供たちのえ顔もどつてくるようにした
いのです。そのためにも自分もつた夢をすてずにかんえてみせよう
と思いました。

ぼくはまだ10才なので本当に将来科学者になれるかは全く分かり
ません。でも、なれる事だけを思って、今できる事を考えてみよう
と思ひました。

まず、なんといつても勉強をがんばる事だと思ひます。科学者にな
るためには、国語・算数・理科・社会の4科目全てが大切になると
うので、それぞれの教科を得意にできるようにしたいです。

次に、ニュースや新聞などを毎日少しずつ読んだりすること
も必要だと思ひます。ニュースや新聞、どちらも最新の情報などが手
に入ります。この社会で何が起きているという事は、どの職業にお
いても大切だと思ひたからです。

最後に、勉強はあせらず、コツコツやることも大事だと思ひます。
少しづつだけけれど、かくじつに理解することができるようです。科学
者は努力すればなれる職業です。

夢に向かって勉強をしっかりとやり、世界中の人々のためにもがんばろうと思いました。

